

# 霧島市ゼロカーボンシティ宣言

～2050年脱炭素社会の実現～

近年、地球温暖化が原因とされる気候変動により、甚大な被害をもたらす自然災害が世界各国で発生しています。本市でも、平成5年の豪雨災害において、市内各地で崖崩れや河川の氾濫が発生し、17名の尊い命が奪われ、広範囲で生活機能が麻痺するなど、悲惨な経験をしています。

今後、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出を続けると、大型台風や集中豪雨による風水害の増加、猛暑日の増加など、安全・安心な市民生活や経済活動、豊かな自然環境に大きな影響を与えかねません。

2015年に採択されたパリ協定においては、世界全体の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求することが世界共通の目標として掲げられ、脱炭素化に向けた動きが世界の大きな潮流となっています。

我が国においては、2020年10月に「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、国民並びに国、地方公共団体、事業者及び民間の団体等の密接な連携の下、人の活動に伴って発生する温室効果ガスの排出量と吸収量との間の均衡を図ることを目指しています。

本市においても、先人から受け継がれてきた豊かな自然や歴史・文化、安心・安全なまちを将来の世代に確実に引き継いでいくため、脱炭素社会の実現に向けた取組を積極的に行っていくことが求められていることから、本市は、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指し、市民・事業者・行政が協働して全力で取り組むことをここに宣言します。

令和5年2月20日

霧島市長 中重真一